

絵描き井上ヤスミチの ムダなもの すきでして... ④

春からアトリエとして借りている
「くすのき荘」の話

ごみっと・SUNの表紙イラスト担当の井上ヤスミチです。昨年からエッセイも書かせていただいています。ごみ問題のことはよくわからないので、一見ムダに思えることにも有用なものがあるよなあ...というぼんやりしたくりに書いております。

今回は、春からアトリエスペースを借りている北池袋のくすのき荘という面白い場所の話。古い物の再利用という視点なども交えて。

これまで20年近く、僕は自宅の一室を仕事専用の部屋として使い、主に家で仕事をしてきたのですが、子どもたちが成長し子ども部屋を増やしたいということと、コロナ禍で人に会う機会が減って気が滅入りそうになり、人と会いながら仕事できるような環境のほうが良いのではないかと考え、今年の春に一念発起して家の外にアトリエを借りることを決断。

その場所が家から自転車で20分ほどの距離にあるくすのき荘というスペースで、古い建物を利用した「シェアアトリエ兼コワーキングスペース兼もう一つのリビング」という感じの場所なのですが、そういった短い言葉ではぜんぜん魅力を説明できない、なかなか複雑で味わい深い場所なのです。

くすのき荘は、築46年の運送屋さんの社屋だった古い木造2階建て。ここの二階の広い住居部分を5年ほど前に、後にくすのき荘の代表者となる山本山田夫妻が借りて補修しながら住み始め、広すぎるスペースを有効活用するためにくすのき荘と名付け、会員を募ってシェアしたのが始まり。賃貸物件に名前をつけちゃうってすごい。

当初は二階だけ借りていたのがやがて一階も借りることになり、一階には角材で仕切られたシェアアトリエブース（僕はこの一階ブースを借りています）を作り、コロナ前には隣の公園を使ってイベントをやったりもしたそう。今年はカフェを作る計画が進んでいます。

会員さんたちの日々の使いかたはさまざま。山本山田夫妻は近くに山田荘という風呂なし木賃アパートを所有していて、そこを住居としてだけでなく、作家のアトリエやお教室や事務所利用などの用途でも貸しています。その山



ごちゃごちゃ散らかっていますが、これがくすのき荘の井上のアトリエブース。

田荘の居住者がくすのき荘のシャワーや広いキッチンやリビングを活用しに通ったり、週末に趣味を掘り下げる場所として借りる会員さんがいたり、リモートで働く会員さんがコワーキングスペース的にパソコンをひらいて仕事する場として使っていたり。あるいは美大の学生が絵を描くために借りたり、これから始めようと思う地域活動や商売の準備として試験的に使う会員さんがいたり、息抜きに来て昼寝してる会員さんもいたり。

生活、趣味、仕事、気分転換、多様な会員さんが多様な使い方をしています。みんなが同じ方向を向いているでもなく、それぞれがやりたいことをしているバラバラさが僕には心地よいです。



二階の共用リビング（手前）とキッチン（奥）。カウンターの側面には不要になった建具が利用されている。

特にメンテナンスがされてなかったようで、借りた当初は雨漏りもあったという古い木造物件。借りる契約をしてから工事を重ねて住めるようになるまでになんと1年半かかったとか。現代の建築と比べたら快適でも便利でもないし、きつい言い方をしたら利用価値の低い巨大なごみです。そこに手を入れて、仕組みを考えて、やりたいことがある人が集まってきて、地域との交流も少しずつ作って、活気が生まれてしまっている。こういう「ごみの再利用」もあるのだなーと、日々進化を続けているくすのき荘の中で感じています。

いやいや、建物そのものに魅力があるから夫妻は直してでも住みたかったわけだし、今も人が集っているので、ごみの再利用という言い方は酷いかな。僕自身も古い建物が好きで、同じような物件に10年ほど住んでいました。古い建物は、好きな人にとっては宝物です。

この場所と関わる人たちに良い刺激をたくさんもらいながら、僕自身の活動もさらに面白くなっていくといいなと思っています。アトリエをここに移してから、コロナ禍だというのに毎日とても楽しい!!

山田荘+くすのき荘 かみいけ木賃文化ネットワーク
<https://mokuchin-bunka.com/>

井上ヤスミチ <http://yasmichi.com>